

寒波のあとのカワハギ

釣行レポート: やまさん

最近2週間に1度のペースの釣りをしているが
前回、前々回ともに週末ごとに雪が降ったり、天候が最悪！
今回3連休中に釣りに行こうと思っていたが、またも寒波来襲。
当初、愛媛でカワハギと思っていたのが天候が厳しいので
まだ風とかましそうな能登島のカレイへと変わり、そのうち雪が降るということで
「どうしよう??」となり、結果的に紀東方面で釣果があると
どこかのHPの掲示板でみて、そういえば去年も・・・とリスクは高いが
カワハギ狙いでとりあえず行く先を決定。
そんなおりに hedai 隊長からどこいくの? と打診があり、
一緒にいくことになった。

ただ、当初予定していた日曜日は前日の雪のせいで1日順延。
次の日の仕事が“かなんなァ”と思いつつ、日曜日の深夜に神戸を出発。

道中、おおむね問題がなかったが、大台ヶ原を越える最中に、
鹿や雪を見ながら、途中道路が凍結してヒヤヒヤしながら、
なんとか狙いの賀田湾に午前3時ころには到着。
ところが竿釣りのツワモノがいてすでに場所とり完了。
やむなく隊長に第2ポイントへ入ってもらい
私は第1ポイントをゲットすべく近くで竿出しすることにした。

午前6時を過ぎ、空が白み始めたのを見ながら
久々の釣りを開始。
私は第1ポイント近辺で竿出しできそうなところも探してみたがみあたらず。
第1ポイントのすぐ近くで竿出しを敢行。
水深があるポイントだけに期待はもてそうだが、1投目にミニカサゴと
イソベラのダブルがきて、一撃で気分がナエナエ。。
だが、これも時期的にはしかたないと少しづつ投点をずらしながら探してみる。
水温は16度を超え、黒潮もかなり接岸している模様。
これならいけると思う反面、現実的には厳しい。
午前7時を過ぎて竿尻を少し持ち上げるようなアタリがあり
回収してみるとカサゴの27cm。
とりあえずオカズゲットということでクーラーに入れ、

次を狙うとコツコツとしたアタリ。

合わせるとスカッ！

どうも型が小さいカワハギのようだ。

そんなやり取りが続き、午前9時に隊長から移動勧告がでる。

たしかに厳しい状況であったので、とりあえず移動。

熊野周辺をみながらめぼしそうな竿出しポイントを試みるが

ブイがあったり、波や風があったり、駐車場代が高かったりでお手あげ状態。

すると隊長は浅めのだが昨年つれているポイントを推薦。

ただ私的には水深が浅いと魚がでないような気がして、どうも気が進まなかった。

それに昨年は超暖冬だし、今年は寒いから期待薄とっていた。

しかし、昼前で行く先もなく、もうボーズでいいやと隊長の意見を取りいれて、昨年全日本キスで竿出した熊野のポイントへ。

水深は15m程度で本当に期待はなかったがとりあえず竿出し。

ちょうど正午が目の前にせまっていたころだった。

気温もあがり、なんとなく4月初旬を思わせるような陽気のなか

1本目の竿をだし、2本目をすぐに準備して投擲。

そして1本目をサビいてみるとズッシリ重量感。

念のため慎重にあげてみると26cmのカワハギと手のひらカワハギのダブル。

これをみてやる気が復活。



しばらくエサとり少々で打ち返していたが、午後1時を前にまたも26cmのカワハギ。
エサとりもあり、水温が高めであることをうかがわせる。
ただ、釣り開始ころからの強風で体感温度が下がってきたので
温かいからと車の中に放置してきた防寒着をひろって釣り座へ。
この間に隊長がキュウセンの26cmクラスをゲット。
隊長は大物号数がのびてうれしそうだ。
ただ、こちらは狙いのハゲの28cmクラスがないのが寂しい。
さらに1時間ほどしてキュウセンの26cmがきてとりあえずよしということで
午後3時半に納竿。



今回の釣行で水温確認の重要性を再確認。
とくに黒潮接岸は海水温上昇の関係からも、よいことと捉えられている。
磯釣りなみに、投げも水温に関心を持っていく必要があると感じた。

この時期でランク3つゲットなら十分満足ものだが
ぜいたくとは思いつつも、やはり狙いものがほしいところ。
週末の天候が回復すればさらに有望ポイントへ行ってみたいと考えている。

MAKISSUMI

自然とともに、人とともに



丸住 株式会社